

## 「逃げるは恥じゃないです(^\_^;)」



今度は GD フィットが初優勝！ #45

また微妙に流行りものをぶっこんできやがったなど、ツッコミは無しでお願いします。ええウチでも録画してみます(笑)、火曜日が楽しみ♪。

というわけで全4クラスのうち EN クラスと 3C クラスの2つはチャンピオンが確定していますが、1+2 クラスと OP クラスはまだまだ逆転の可能性が！もちろん逃げ切って勝利を手にするのは恥じゃないですよ。

### 「1+2C」クラス（1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車、1501cc～1850ccのNA後輪駆動車のクローズドクラス）

今大会はEN(エンジョイ)クラスへの参加チームは1台、そして1+2クラスは最多の13台を集めた。

第4戦で#411「AITAC スイフト」が念願の初優勝、#21「ZEST ルプロススターレット」が下位に沈んだことで、にわかに風雲急を告げてきたタイトル争い。その差は僅かに1P、難しい計算は抜きで素直に勝ったほうがチャンピオンだ！

#### ■予選

まだ何とか持っている天気のもと行われた予選。#45「剛式レーシング☆フィット耐久号」が最終Lapに送り出して完走した第3戦以来の出場。あのときは黄色のボディだったが、白色にハコ替えて1'03.938。文句ナシのクラストップタイム。2位は#411「AITAC スイフト」1'04.103で横につける。3位は#107「ウエリースロードスター1号」1'04.311、これも04秒台とハイレベルな予選。

4位は#21「ZEST ルプロススターレット」1'05.550、見据えるのは直接のライバル#411。5位は#11「アンリミテッドDXL ヴィッツ」1'05.712。ここまでが05秒台で、決して遅いタイムとはいえない、そのくらい速くなったのだ。

6位は#4「ミュルサンヌ ロードスター」1'06.140、7位#67「みかんちゃんデミオ」から名前が替わった「CRAZY RICZS V デミオ」1'06.260。8位#39「COCPIT&CLN ヴィッツ」1'07.141、唯一のリッターヴィッツだ。

さらに9位は#870「MSCJ 東海マーチ」1'07.621、10位レクサス風グリルがポイント#911「ブラウニープリントアーツ ヴィッツ」1'07.890、このあたりはタイムが接近している。

11位#30「TTe MR-S」1'08.290、12位#70「ウエリース シビック GT」1'11.349、13位#50「MSCJ 奈良ロードスター」1'11.676で1+2クラス全車決勝進出。

その後にENクラス唯一のマシン#12「アンリミ&今井製置 シビック」1'13.940となっている。



逆転でチャンピオン！！ #411



逃げ切れず、残念、しかし最多勝 #21



表彰台まであと一歩 #4



こちらも表彰台まであと一歩 #70



ウオツと～ 6位 #67

# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■序盤

今にも降り出しそうなグリッド上だったが、とうとう雨が落ちてきた。そんなスタートからトップに立ったのは#45「剛式レーシング☆フィット耐久号」。そして2位には#21「ZEST ルブロススターレット」、3位#107「ウエリース ロードスター1号」がつけトップグループを形成。

4位#870「MSCJ 東海マーチ」からは第2集団、5位#67「CRAZY RICZS V デミオ」、6位#11「アンリミテッドDXL ヴィッツ」、7位#4「ミュルサンヌ ロードスター」、8位#39「COCBIT&CLN ヴィッツ」。

ENクラスの#12「アンリミ&今井製置 シビック」を挟んで、9位#70「ウエリース シビックGT」、10位#50「MSCJ 奈良ロードスター」、11位#30「TTe MR-S」と続き、早くもピットに入った#411「AITAC スイフト」が12位でこの位置に。そして最後尾は#911「ブラウニープリントアーツ ヴィッツ」。

序盤は#50、#911そしてENクラスの#12あたりが濡れた路面に足を取られすっぴんをする場面も見られたが、いずれも戦列に復帰しており大きなトラブルにはなっていない。

## ■中盤

中盤でトップに立つのは#21「ZEST ルブロススターレット」、それを#411「AITAC スイフト」が追いかける展開に。はやくもチャンピオン争いが白熱。前でゴールしたほうが王者。

3位は今大会好調の#45「剛式レーシング☆フィット耐久号」、初代フィットをここまで走られるのは流石の一言。ここまでのところトップスリーは実力伯仲。

セカンドグループも混戦模様、#107「ウエリース ロードスター1号」、#70「ウエリース シビックGT」のチームメイトバトルに#67「CRAZY RICZS V デミオ」、が絡む展開。そしてENクラス#12「アンリミ&今井製置 シビック」はこの位置。

そしてサードグループとなる#870「MSCJ 東海マーチ」、#39「COCBIT&CLN ヴィッツ」、#30「TTe MR-S」。まさに車種もメーカーもバラバラな面白い戦い。

その下も接戦だ。#4「ミュルサンヌ ロードスター」、#11「アンリミテッドDXL ヴィッツ」、#911「ブラウニープリントアーツ ヴィッツ」、#50「MSCJ 奈良ロードスター」。最後尾の#50が少し離されているが、あとはさほどの差はない、まだまだ順位の変動はありそうだ。

## ■終盤

レースは残り1時間、雨は本降りだ。まず逃げる#21「ZEST ルブロススターレット」、追う#411「AITAC スイフト」、そして備えてピットインを行う#45「剛式レーシング☆フィット耐久号」、どうやら優勝はこの3台に絞られてきたか。

全体のタイムボードの中団は1+2クラスのマシンがひしめく、#107と#70のチームメイトバトルのゆくへはどうか？

さらに一回ピットストップが少ない#39「COCBIT&CLN ヴィッツ」が最終ステイントでどこまで上がってくるのか、はたまたこの悪天候で、思わぬことが起こるのか。気になるのは#21「ZEST ルブロススターレット」が2度ほどスピンを喫していることだ、ともに大きなトラブルではないようだが、最後に響かなければよいが…

一方ENクラスの#12「アンリミ&今井製置 シビック」が実行遅れも含めペナルティが4回、1+2クラスの#39「COCBIT&CLN ヴィッツ」が同じく2回のペナルティを出されているのはあまり感心されたことではない。

中盤で離されかけた#50「MSCJ 奈良ロードスター」だが、なんとか持ち直し、規定周回数はクリアするペースで周回を重ねている。最後まで全車完走を目指してほしい。



ペナルティが痛かった #39



唯一の日産車 #870



ウォータースクリーンの中を疾走 9位



ここまでがポイント 10位 #11

# Race Report

## ■最終結果

さあ最終戦のゴールだ、真っ先にチェッカーを受けたのは#45「剛式レーシング ☆フィット耐久号」、待望の初優勝だ。初代の GD 型フィットの優勝はシリーズ初。2 位は#411「AITAC スイフト」が1Lap 差で#21「ZEST ルブロススターレット」をさした。終盤までトップを守った#21「ZEST ルブロススターレット」は逃げ切れず。これにより大混戦となった今年の 1+2 クラスは#411「AITAC スイフト」が初戴冠、その差は 2P だった！

4 位は#4「ミュルサンヌ ロードスター」、5 位#70「ウエリース シビック GT」、6 位#67「CRAZY RICZS V デミオ」、7 位#39「COCPIT&CLN ヴィッツ」、8 位#870「MSCJ 東海マーチ」、9 位#107「ウエリース ロードスター 1 号」。この中段グループは 4 位から 9 位までが同一周回という激戦ぶり。

10 位は#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」、11 位#911「ブラウニープリントアーツ ヴィッツ」、12 位#30「TTe MR-S」と続き、#50「MSCJ 奈良ロードスター」も無事完走。

## ■総評

逃げるマシンに追うマシン、開幕連勝でポイント的にも先行していた、#21「ZEST ルブロススターレット」が第 4 戦での思わぬ低迷から#411「AITAC スイフト」が逆転王座に。レースは結果だから仕方がないが、内容としては実に濃いシーズンだった。勝ったチームとそうでなかったチームとの差は驚くほど少なく、このクラスの充実ぶりが伺える。

昨年は GE 型フィットが初優勝からチャンピオン、今年は EP スターレット HT スイフト、GD フィット(およびディフェンディングチャンピオンの GE フィット)と様々なマシンが勝利の栄冠を手にしてきた、この多様性こそ、アマチュアスポーツの勲章だと思うが、来年はどんなドラマが待ち受けているのか！



こちらは 11 位 #911



完走だがポイントならず 12 位 #30



こちらも完走 13 位 #50



EN クラスは 1 台 #12



1+2 クラス



年間表彰

タイトルとったど〜パイヤポ〜！！





今年は何度この後姿を！！ #110



雨中の激走 #62



連続 3 位表彰台 #111



盛り返して 4 位 #106



今季初参加で 5 位 #222

## 「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクロズドクラス）

第4戦で今季3勝目をあげて#110「DXL アライメント浜松レビン」が、見事にチャンピオンを獲得。AE111 のポテンシャルを開花させたのだが、この最終戦では何かが起こるか。

タイトル争いこそ決したが、各ポジションでは僅差の展開が続く、今大会は計7台と豊富なエントリーを集めた。

### ■予選

予選トップは#62「WN ワコーズCLNシビック」1'02.558、前戦はマシントラブルで悔しい思いをしたが、今回はうっぷんを晴らす予選クラス首位。2位は#87「T-tune 瀬戸自動車シビック」、1'02.837。3位にチャンピオン#110「DXL アライメント浜松レビン」が1'02.845でつける。

少し空いて4位#106「D&M スパイクオート 106」1'04.798、雨が降ればかき回すか。5位#222「NAHレーシング S2000」1'05.778、こちらは雨が降ると分が悪い。6位#111「S'teeAE-1 ファジーレビン」1'07.623。7位は岡山から参加の#56「小田川運送 MMS 岸本シビック」、タイム計測こそできなかったが、決勝へは出走できそう。

### ■序盤

まず最初のステイはトップ3が、雨中のガチバトルで速さ比べ。雪辱に燃える#62「WN ワコーズCLNシビック」が首位。2位は#110「DXL アライメント浜松レビン」がチャンピオンの意地。3位は#87「T-tune 瀬戸自動車シビック」。

第2集団は4位に#56「小田川運送 MMS 岸本シビック」、5位#222「NAHレーシング S2000」。そしてその後を6位#111「S'teeAE-1 ファジーレビン」、7位#106「D&M スパイクオート 106」というオーダー。

### ■中盤

雨が本降りとなった中盤の争いは、#110「DXL アライメント浜松レビン」がトップに立つ。それを追うのは2番手に下がった#62「WN ワコーズCLNシビック」。3番手は#222「NAHレーシング S2000」。

4番手は#111「S'teeAE-1 ファジーレビン」、5番手#106「D&M スパイクオート 106」。いずれも雨での経験も豊富なチームだが、油断は禁物。

6位の#87「T-tune 瀬戸自動車シビック」、序盤は好調だったがマシントラブルからペースが鈍ってきた。そして7位の#56「小田川運送 MMS 岸本シビック」も同様。ピットに入れての整備が行われる。ともに完走を目指してほしい。

### ■終盤

終盤までトップを守る#110「DXL アライメント浜松レビン」、逃げるというよりはコントロールするのに近い。2位#62「WN ワコーズCLNシビック」こちらは追いかけるしかない。3位#111「S'teeAE-1 ファジーレビン」久々の雨は味方したか。4位#222「NAHレーシング S2000」、上位3台とは少し開いたが、まだまだ表彰台のチャンスは十分。

トラブルは5位の#106「D&M スパイクオート 106」にも…本来は雨を苦しめないチームだが周回数伸びない。

#87「T-tune 瀬戸自動車シビック」と#56「小田川運送 MMS 岸本シビック」はそれぞれ67Lapと47Lapでリタイヤとなってしまった。

# Race Report



## ■最終結果

結局最後までトップを守った#110「DXL アライメント浜松レビン」が逃げ切り成功、チャンピオンの花道を飾った。

2位争は#62「WN ワコーズCLNシビック」が同一周回まで追い込んだが、最後は#110にコントロールされた。

表彰台のもう1台は#111「S'teeAE-1 ファジーレビン」、2戦連続3位だ。

4位#106「D&M スパイクオート 106」が盛り返した。5位#222「NAHレーシング S2000」はピットクローズ時の進入違反ペナルティの履行遅れで3周減算が響き順位を下げてしまった。これは防げるミスなので注意したいところ。

ここまで5台が完走というのが最終結果。

## ■総評

見事にチャンピオンを獲得した#110「DXL アライメント浜松レビン」だが、来季は新たなマシンを走らせるとのことで、チャンピオンカーを20万(単位は円だと思います)で売りに出した！

ノンライセンスレースでは少数派のトヨタ車だが、今季4勝を挙げたチャンピオン車ということで、このまま継続参戦が可能、ぜひ注目してみてもはどうだろう。

その他今季勝利を挙げたのは、第3戦でのS2000。さて来年は各チームがどんなマシンを用意するのか今から楽しみだ。



残念ながらリタイヤ #87



結局リタイヤ こちらも残念 #56



3C クラス

## 年間表彰





## 「OP」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

15P 差で迎えた最終戦#19「YADOKARI シビック」が数字的には絶対有利だが、ここでも果たして逃げ切れるか。#44「カーリペア・ルブロスシビック」は逆転のためかなりマシンの調整を行ったとの話も聞く。そして今回は 1+2 クラスでのチャンピオン経験のあるカムコワークスが EF 型の CR-X を持ち込んできて、#405 の昭和対決（すみません、本当は両車とも平成の年式なのはわかっておりますが…）が実現。



雨の中を突っ走る #44

### ■予選

予選は”改造車クラスらしいところを見せたい”と語っていた#44「カーリペア・ルブロスシビック」が 1'01.323 で全体の PP！2 位は#19「YADOKARI シビック」1'01.590、3 位#343「なかや☆CR-X」も 01 秒台に入れて 1'01.872 とここまで全体のトップ 3 を独占、改造車クラスの面白さが出ている。

4 位#405「インフィニティー FX」1'05.270、連続完走、連続表彰台を狙う。

### ■序盤

いきなり首位争いで真っ向勝負、#44「カーリペア・ルブロスシビック」が総合トップを行けば、#19「YADOKARI シビック」がそれをピタリと追走。#343「なかや☆CR-X」と#405「インフィニティー FX」も 3 位争い。

#343「なかや☆CR-X」は色々と思いの詰まったマシンということで今回参加とのこと、予選ではなかなかあなどれない速さを見せたが、決勝ではどうか。



自己最高位 2 位 #405

### ■中盤

中盤でも#44「カーリペア・ルブロスシビック」が逃げる。追いつがってきた#19「YADOKARI シビック」だが、少しギャップが開いて 3 位に。#19 はリタイヤをしなければチャンピオン確定、無理をしない選択もありで、それももっとも恥じありません。

代わって 2 位走行は#343「なかや☆CR-X」、ここまでは上々のレース運び。

4 位#405「インフィニティー FX」、これまでのレースでは鬼門となる中盤でも、まずまずのペースを刻む。冬でしかも雨ということもあってマシンへの熱は心配無いのも好材料か。



チームメイトの思いを載せて #343

思いがあるから最後まで走り続ける



OP クラス



# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■終盤

いよいよもって終盤戦に突入、まだまだ#44「カーリペア・ルブロスシビック」がトップ。#19「YADOKARI シビック」はどうかといったところで、#19 にクラッシュ発生、雨に煙るホームストレート上で、スピンからガードレールに接触してしまう。マシンは前部を中心に壊れ、リタイヤ、ただこの時点で 95Lap を走行しており、規定周回数をクリアとなればチャンピオンが確定する。

#343「なかや☆CR-X」にも試練、やはり耐久の洗礼か様々なトラブル襲う。コースアウトやマシンの不調など。しかし最後まで走らせたいチームメイトの思いを載せてゴールを目指す。

しかしそれは#405「インフィニティー FX」も同じ、天候には気をつけなければならないが、現時点では 2 位走行、事項最高位でのフィニッシュなるか。



傷つきながらもチャンピオン… #19

## ■最終結果

さあエンディング#44「カーリペア・ルブロスシビック」が堂々の総合トップでチェッカー。改造車クラスのプライドを見せつけた。2 位には自己最高位で#405「インフィニティー FX」が入り、苦しみながらも 98Lap 走った#343「なかや☆CR-X」が表彰台。

95Lap でリタイヤとなった#19「YADOKARI シビック」だったが、完走扱いで 4 位 10P を獲得して今年のチャンピオンとなった。



## ■総評

様々なことがあった今シーズンだったが、シリーズ終盤での#44「カーリペア・ルブロスシビック」の 2 連勝など、ドラマチックな展開だった。結果としては 5P 届かなかったが、ぜひ来季以降も継続参加を期待したい。

#19「YADOKARI シビック」も、マシンを修復して更に強くなったところを見てみたい。そして最終戦を盛り上げてくれた青春のクルマたち、「FX vs CR-X」サイコーでしたありがとうございます。

人気ドラマに先駆けてエンディングを迎えた 2016 シーズン、すべてのクラス、すべてのファン、そして関係者、みなさま本当にお疲れ様でした。来年はさらなる盛り上がりを期待しています。



年間表彰

